

## 岡山県花き消費拡大実行委員会（岡山県）

協議会構成団体：岡山総合花き株式会社、全国農業協同組合連合会岡山県本部、岡山県、岡山市市場事業部、岡山県花卉農業協同組合、岡山花き仲卸協同組合、岡山県花卉商業協同組合、岡山県花木園芸商業協同組合、岡山県三栄生花商業協同組合

### 対象品目

切り花：りんどう  
スイートピー  
バラ  
カーネーション



### < 取組内容 >

#### 1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- ・県オリジナルりんどう「岡山RND4号」について、初期生育・収穫初年の収量向上を目的に、収穫後ジベレリン処理が収穫2年目以降に及ぼす切り花品質への影響及び1セルに2株を植えた2株苗の影響を県内3産地4名のほ場にて調査を行った。
- ・令和4年から苗の供給を開始した県オリジナルりんどう「岡山RND5号」について、定植初年の生育を3産地3名のほ場にて調査を行った。

#### 2 花きの消費拡大・利用定着の取組

- ・未就学児、小学生等649人を対象にフラワーアレンジや苗の植え付け等の花育体験を8回開催し、県産花きへの理解を促した。
- ・商業施設、観光施設、イベントと連携し、県産花きの展示を行い、多くの方に県産花きの魅力を発信するとともに、展示の一部ではスイートピーの花色投票を実施し、消費者の嗜好を調査した。
- ・県産花きの消費拡大に向けて、生産者、農業団体、生花店、行政を対象に近年の花き消費動向に関するセミナーを開催した。

### < 取組の成果 >

- ・「岡山RND4号」の収穫後のジベレリン処理について、収穫2年目においても無処理区と比べて立茎数がやや多く、同程度以上の収量が見込めることが確認できた。また、2株苗についても、慣行区（1株植え）と比べて、定植1年目、2年目で立茎数が増加し、3年目は同程度であったことから、2株苗により収穫初期の収量増が見込めることが確認できた。
- ・「岡山RND5号」の定植1年目の生育について、開花期が同程度の「しなの2号」よりも生育が旺盛であり、県内産地への適応性が確認できた。



岡山RND5号の生育状況

- ・花育体験の感想から「花の管理方法が分かった」「花への愛着が深まった」など好意的な意見が多かった。
- ・観光施設では秋のイベントと時期を合わせて開催することにより、多くの方が展示に見入っていた。また、商業施設においては2日間で856名が投票に参加し、その意見を産地にフィードバックすることにより、より消費者のニーズに沿った品種の栽培につながる契機となった。
- ・セミナーでは48名が参加し、長引くデフレやコロナ禍が及ぼす花き消費への影響や近年のトレンド等について学んだ。



後楽園での展示



花き消費拡大セミナー

### < 今後の取組予定 >

- ・県オリジナルりんどうについて、岡山RND5号の切り花品質の調査に取り組むとともに、希少性の高いピンク系の品種についても実証を行い、消費者のニーズに応じた品種構成の構築を図る。
- ・県産花きのPRは継続して実施するとともに幅広い年代の方に魅力を感じてもらえるよう、親子体験や他品目と連携した取り組みを行う。

## 広島花きイノベーション事業推進協議会（広島県）

協議会構成団体：広島県花卉園芸農業協同組合、広島生花出荷協同組合、広島県花き商業協同組合、広島市三友生花卸売商業組合、株式会社花満、株式会社広島県東部花き、株式会社呉生花市場、一般社団法人日本インドアグリーン協会広島県支部、広島県農林水産局農業経営発展課、NPO法人日本園芸福祉普及協会

### 対象品目

切り花：菊、バラ、カーネーションなど



### < 取組内容 >

### < 取組の成果 >

#### 1 需要構造の変化に対応した生産・流通体制の整備

- ・県内の菊の生産は和菊の品種が中心で、需要の見込まれるマムの生産は限定的である。
- ・従来の和菊品種からマムへの転換を促すきっかけとして、洋風菊(マム)を試作し、イベント等を活用し消費者の声を生産者に届けた。

#### 2 花きの消費拡大・利用定着の取組

- ・花きの需要拡大を目的として、①高校生によるいけばな競技大会、②高校生とコラボした花生けイベント、③屋内での花きの活用提案イベントを地元著名人の協力も得て開催した。

- ・日本の花文化である「いけばな」も敷居は高くないことを発信する目的として、花の専門家ではない地元著名人のいけばな作品展やステージイベント、消費者が参加できるワークショップ等で実際に花きにふれてもらう機会を提供し、併せて、新しい花きの装飾スタイルの提案も行った。

- ・家庭内の花き購入額の増加に向けて、幼稚園児の花育事業を兼ねてアレンジメント体験を実施した。家庭でも再現できるようHow to動画(<https://youtu.be/1sSeEixGRII>)や花の取り扱いの基礎(<https://youtu.be/Zao5KVYPzBQ>)も制作した。

- ・マム新品種15品種を試作した。和菊生産経験のみの生産者にとって品目が違うものを扱っているようだと感想。
- ・試験栽培により、夏季の高温による小斑点などの生育障害の発生、従来のマムの施肥量による草丈の伸びすぎが確認され、転換には暑さ対策施肥量、定植時期等の対策が必要であることを確認した。
- ・消費者による産地見学、収穫体験を実施したところ、バラエティに富んだ花形・色に高評価で、地元花きへの親しみと興味を引き、生産者との交流で相互理解も深められた。特に人気があったのはディスプレイ系品種(セウエスト・セロサ・セウリア・セウグレ・サフィナが上位)であった。



マムの試作ハウスでの検討会

- ・高校生によるいけばな競技大会では、制限時間の中でのびのびと花を生ける参加生徒に多くの声援が寄せられた。この様子はYoutubeでも発信された。
- ・品評会のイベントでは、いけばなを実際に行っている高校生の姿や彼らの花を生けるときの器や飾り方のアイディアは消費者の関心を引いた。地元著名人の協力もいただいたイベントでは、彼らのいけばな作品のほか、花に寄せる著名人らの想いの発信や花を通じた交流も図り、花にふれる機会を創出した。



高校生によるいけばな競技

- ・幼稚園等39施設、1,409名の園児と一部参観日等のイベントを活用した場合はその保護者に対して同時にフラワーアレンジメント体験を実施した。アンケート回答には日ごろ花にふれる機会が少ない家庭もこの体験をきっかけに花を買ってみたなどの感想が寄せられただけでなく、卒園式での先生へのお礼に園児の生けた花を贈呈するなどの企画の相談も受けた生花店もあり、花きの購買への手ごたえもあり、子供の興味は親の花きの購買に対する意識にもつながることが大いにつながった。



花育 アレンジ体験

### < 今後の取組予定 >

- ・翌年度はマムの試作で得られた結果を和菊生産経験しかない県内生産者全体にも伝え転換を促すとともに、引き続き実需者に聞き取り等を行い、小売店にも協力をいただき、マムをはじめとした花きの需要動向の把握に努める。
- ・需要拡大につなげる講習会は、園児からその保護者へと焦点を移すことにより、より購買を意識した講習会を企画する。イベントでは、その季節に応じた花きの扱い方など、これまでに制作したツールを活用して情報拡散し購買につなげるよう努める。

## 花卉園芸推進協議会（山口県）

### 協議会構成団体：

山口県花卉園芸農業協同組合、山口県農業協同組合、(株)徳山花市場、(株)山口県中央花市場、(株)下関合同花市場、花卉商代表、(一財)やない花のまちづくり振興財団、(一社)JFTD75 花キューピット山口支部、山口県地域消費者団体連絡協議会、山口県

### 対象品目

切り花：オリジナルリンドウ  
オリジナルユリ  
球根：オリジナルユリ



オリジナルリンドウ・ユリを使用したアレンジメント作品

## < 取組内容 >

## < 取組の成果 >

### 1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- ・オリジナルリンドウの省力的な栽培技術の導入を目指し、自動灌水システムの設置、除草剤の利用等の技術実証を実施
- ・オリジナルユリ種苗供給の安定化を目指し、効率的な培養苗作製手法の検証及び作成した培養苗を用いた栽培実証を実施
- ・併せて、ユリ球根の長期間安定供給を目指し、冷蔵・冷凍実証を実施

- ・自動灌水システムを導入することで、灌水・施肥時間が32.8時間/10aから4.0時間/10a(機器設置時間込み)に削減することが出来た
- ・除草剤による省力的な栽培管理で、雑草を抑える効果を確認した
- ・クリーンベンチを用いずに培養苗を作製し、その培養苗が通常の苗と同様に生育することを確認した  
→クリーンベンチが無い条件でも、培養苗の作製が可能となった  
→令和7年度に切り花用球根100万球供給するための体制を確立
- ・冷蔵・冷凍実証の結果、冷蔵業者所有の冷蔵庫を活用し、年内の供給が可能であることを確認した  
→業者の施設を活用し、低コストでの冷蔵供給が可能となった



有菌下培養苗

### 2 花きの消費拡大・利用定着の取組

- ・県内高校生を対象に、やまぐちオリジナル花きの利用提案及び利用場面を体験してもらうために、Webでのアレンジメントセミナーを開催
- ・オリジナル花きの普及啓発及び消費拡大を目指し、献血ルームが実施する父の日のイベントに併せて、献血参加者を対象に、オリジナルリンドウを利用した花束やリーフレットを配布し、アンケートを実施することで効果を検証

- ・オリジナルリンドウを活用したアレンジメント等の体験企画7回、PR企画1回を実施した結果、県内市場を通じた県内でのオリジナルリンドウの取扱量・金額が増加

○取扱量 (R3→R4) : 96千本→107千本  
○販売金額 (R3→R4) : 516万円→597万円



Webセミナーの様子

## < 今後の取組予定 >

- ・翌年度はホームユース需要の高い小輪系ユリであるやまぐちオリジナルユリの品目転換を進めるとともに、引き続き需要動向の把握を行う。
- ・実証した培養苗の作製手法と従来の増殖手法を組み合わせることで、令和7年度には切り花用球根の供給量100万球を目指す。
- ・引き続き、消費拡大及び利用定着を目指し、イベント等を活用したPR活動を実施する。

## とくしまの花振興協会（徳島県）

協議会構成団体：全国農業協同組合連合会徳島県本部、徳島市農業協同組合、東とくしま農業協同組合、板野郡農業協同組合、名西郡農業協同組合、阿南農業協同組合、かいふ農業協同組合、麻植郡農業協同組合、阿波みよし農業協同組合、徳島県洋ラン生産組合、徳島鉢物洋蘭振興会、阿波洋らん青年倶楽部、株式会社TKなにわ花いちば、徳島県

対象品目  
洋ラン類等



### < 取組内容 >

### < 取組の成果 >

#### 3 花きの消費拡大・利用定着の取組

- ① 県内公共施設等における県産花きPR展示
  - ・ 県産花き需要喚起・消費拡大のため、県内4カ所において、花きPR展示を実施。
  - ・ そのうち2カ所では、フラワーアレンジメント体験もあわせて実施した。
- ② オンラインフラワーアレンジメントワークショップ
  - ・ 日常での花き活用を促進するため、オンラインを活用したフラワーアレンジメントワークショップを実施した。
- ③ とくしま花まつり
  - ・ 一般消費者への県産花きの認知度向上および購入促進のため、アレンジメント教室やフォトスポットの設置等を実施する花き消費拡大イベントを開催した。

- ① 公共施設や商店街など地域住民の目に触れやすい空間を活用し花き展示を行ったことにより、一般消費者へ県産花きの認知度向上・消費拡大につながる取組となった。また、展示とあわせてフラワーアレンジメント体験も実施することで、家庭での花飾り習慣の醸成および購買層の拡大が図られた。
- ② オンラインを活用したフラワーアレンジメントワークショップでは、コロナ禍においても花きを親しむ機会を提供し、県産花きをPRするとともに家庭での花きの利用促進につながる取組となった。終了後のアンケート調査では、参加者の67%が"今回をきっかけに常に家に花を飾ってみたい"と回答した。
- ③ とくしま花まつりについては、例年開催している「花き展示品評会」とアレンジメント教室等を同時開催することで、延べ約600名が来場・参加し、県産花きへの興味関心を高めることができた。



県産花きPR展示



フラワーアレンジメント体験



オンラインワークショップ

### < 今後の取組予定 >

今後とも、花きの消費拡大を図るため、県内花き関係者と連携し、花き消費拡大プロモーション活動を継続して実施し、県産花きの認知度向上および需要の創出・拡大を図るとともに、家庭等での花き活用の提案、リラックス効果の周知等を行うことで、花き購入層（若年層や新規購買層等）の拡大を図る。

## 花の里かがわ推進委員会（香川県）

協議会構成員：香川大学、香川県花き園芸協会、株式会社高松花市場、香川県花卉商業協同組合、香川県農業協同組合、農林中央金庫高松支店、香川県連合自治会、公益財団法人香川県老人クラブ連合会、一般社団法人香川県婦人団体連絡協議会、香川県生活研究グループ連絡協議会、香川県消費者団体連絡協議会、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会香川県支部、香川県園芸文化協会、JA香川県女性部、香川県農業士、高松市公園緑地課、普通寺市農林課、香川県商工会連合会、公益社団法人香川県観光協会、公益財団法人日本いけばな芸術協会、香川県盆栽生産振興協議会、香川県

### 対象品目

- 切り花、鉢花全般
- ・キク
- ・ランンキュラス
- ・マーガレット



### < 取組内容 >

### < 取組の成果 >

#### 1 需要構造の変化に対応した生産・流通体制の整備

- ・需要が低迷する白輪ギクに代わる、夏ギクの有望系有色品種の試作を行い、ニーズに応じた供給を図る。
- ・航空輸送に代わる陸送低温輸送の検討、台車・電子タグの利用の検討を行い集荷管理の効率化を図る。

- ・試作の結果、夏の黄色品種としては花にボリュームがあり有望と考えられたが、高温を避ける換気方法など栽培方法の検討が必要である。
- ・輸送中の温度変化が大きい航空輸送と比較し、陸送低温輸送は温湿度が安定しており、夏期の輸送で切花品質の維持に繋がることが示唆された。
- ・運輸会社、鉢花生産者、普及センター等が集まり、台車・電子タグについての勉強会・検討会を計4回実施した。



有色系有望品種の品質調査

#### 2 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- ・ランンキュラスの土壌分析に基づく草姿改善、定植時期の違いによる生産性を調査し栽培指導に繋げる。
- ・ランンキュラス種苗の安定生産に向けて、種苗生産現場に適したウイルス検定手法を検討する。
- ・マーガレット、ランンキュラスについて、品質向上、低コスト化に向けた出荷方法を調査する。

- ・継続的な土壌分析に基づく栽培指導の結果、県内で極端にNO3-が高いほ場は見られなくなった。過剰なNO3-は切花本数の減少や草姿不良をもたらすことから、適正濃度での栽培により、産地の生産性の向上に繋がると考えられた。また複数ほ場で定植時期による収穫状況を調査した結果、ハウスの温度維持（特に夜温）が、採花時期の前進とその後の生産性に大きく影響すると考えられた。
- ・種苗の生産現場で、生物検定に代わるウイルス検定方法として、少ない工程で短時間で検定可能なDirect ELISA法を採用し、マニュアル化した。
- ・資材の低コスト化に向け、ランンキュラスで新規の吸水性資材を検討した結果、品質保持効果が確認できた。また、日持ち性・作業性を調査し、吸水性資材の適正濃度を明らかにした。

#### 3 花きの消費拡大・利用定着の取組

- ・「高校生花いけバトル香川大会」を開催し、若い世代に花きの需要喚起をするとともに、産地交流会や花きセミナーを通じて県産花きの認知度の向上を図る。
- ・SNSで県産花きの情報発信を行うとともに、フラワーバレンタインに併せて県産花材を使用したフラワーモニュメントを展示する。
- ・花いけ体験のワークショップを実施し、子どもの花への興味を育み、県産花きの普及促進を図る。

- ・第6回目となる「高校生花いけバトル香川大会」では、11校22チームが参加し2年ぶりに有観客にて開催した。大会動画の再生回数は4,000回を超え（R5年3月現在）、大会の認知度は年々高まっている。また出場生徒の86%が「大会を通じて県産花きをより知ることができた」と回答した。更に新たに高校生と産地の交流の場をつくることで、花への関心を高めた。
- ・フラワーバレンタインでのモニュメント展示は、SNSで情報発信するとともに、地元のメディアにも取り上げられ、広く県産花きをPRできた。
- ・花いけ体験のワークショップでは、2日間で180名が参加し、参加者の92%が「体験を受けて今まで以上に花を購入したいと思う」と回答した。



高校生花いけバトル

### < 今後の取組予定 >

- ・花き物流の安定的な確保に向けて、デジタル化による花き流通体制の効率化と出荷資材の検討による低コスト化を検討する。
- ・市場ニーズに応じた供給に向けて、白輪ギクからホームユース需要に対応した品種への転換に取り組む。
- ・高校生花いけバトルや花いけセミナー、SNSでの情報発信を通じて、県産花きの認知度向上・消費拡大に取り組む。
- ・ランンキュラス種苗の安定的な確保、マーガレット産地の維持に向けて、生産性向上・種苗の安定供給に向けた技術検討に取り組む。

## 高知県園芸品販売拡大協議会（高知県）

協議会構成団体：高知県、高知県農業協同組合、土佐花き園芸市場

### 対象品目

切り花：グロリオサ、ユリ、オキシペタラム、トルコギキョウ、ダリア



### < 取組内容 >

#### 1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

・本県は、環境制御技術の開発・導入や栽培ハウス内環境の見える化、栽培ハウス内環境情報等のビッグデータをクラウド（IoPクラウド「SAWACHI」）に集積し、その活用による生産性の向上（データ駆動型農業）を推進している。  
 その中で、県の主力花きであるユリにおいて篤農家の地下部環境をデータとして把握することで、ユリ栽培に適した栽培管理方法のデータ化を図った。

#### 2 花きの消費拡大・利用定着の取組

・若い世代に県産の花に対する興味や親しみを持ってもらい、将来的な花の消費量の増加につなげるため、高校生等を対象に「花いけバトル練習会」及び「花いけバトル高知大会」を実施した。

### < 取組の成果 >

・オリエンタル系ユリ栽培ほ場における体積含水率は、定植後から収穫までの期間、概ね25%～40%で推移していることが把握できた。また、調査ほ場の土壌物理性調査により、体積含水率から生産現場で活用されているP F値に換算した。換算したP F値は、1.0～2.5の間で推移していることが把握できた。  
 ・電気伝導度（EC）は、定植後2週程度で急激に低下する傾向が見られたが、その後は0.1ms/cm程度で推移した。一方で、0.1～0.7ms/cmの間で比較的大きく変動する事例もあった。その他、地温については、農家間差が把握できた。  
 ・上記の状況を把握することで、ユリの地下部環境の基礎データが得られた。今後は適切なかん水管理や適正施肥に繋げていくことで、県産ユリ全体の品質向上を図る。



地下部環境測定機器



測定機器設置状況

・花いけバトル練習会は3回行い、のべ13校71名、花いけバトル高知大会には5校31名の参加があった。  
 ・参加者へのアンケート調査（回答：47名）では、過半数が「花をもっと好きになった」、「飾っている花などを興味を持って見ることが増えた」と回答し、花に対する興味喚起を図れた。また、「花を自宅に飾ることが増えた」、「花を買って人に贈った」などの声も寄せられ、消費量の増加につながった。  
 ・取り組みはテレビや新聞などに多く取り上げられ、高校生等だけではなく幅広い世代にPRを図れた。



花いけバトル練習会



花いけバトル高知大会

### < 今後の取組予定 >

・2024年問題のトラックドライバー不足に対応するため、トラック輸送に替わるJRコンテナを利用した鉄道輸送及び花き出荷箱の統一化により、労働時間の短縮や積載効率の向上を目指す。  
 ・高校生等の若い世代から50代以下の社会人を対象に花に親しむ機会を創出し、県産花きの需要拡大を図るため、花育体験（花いけバトル練習会）及びワークショップを実施する。